

東北電力（株）東通原子力発電所から図書寄贈



3月25日、東北電力(株)東通原子力発電所 金澤定男所長(写真右)が役場庁舎を訪れ、村内の小・中学校を対象とした教育副教材を東通村へ寄贈しました。

同社は平成10年度より、3月25日の「電気記念日」や10月26日の「原子力の日」にちなみ、図書や実験器具、DVDなどの環境やエネルギーに関するたくさん副教材を寄贈してきました。

今回寄贈されたのは、図書36冊と実験器具22点でした。

原子力の日

昭和31年10月26日、日本が国際連合の専門機関の一つである国際原子力機関(IAEA)に参加したことと、昭和38年10月26日に茨城県東海村で日本で初めて原子力発電に成功したことを記念して制定されました。

電気記念日

明治11年3月25日、東京虎ノ門の工部大学校で、公衆の前で初めてアーク灯がともされたことを記念し、昭和3年、日本電気協会の総会で3月25日が電気記念日と定められました。

これまで寄贈いただいた図書や今回の実験器具などの副教材は、次世代を担う子供たちが環境やエネルギーについて学び、健全な心身を育むため活用されます。

『消しましょう その火その時 その場所で』(全国統一防火標語) ～平成28年度 春の火災予防運動防火パレード出動式～



4月11日から17日にかけて、平成28年度春の火災予防運動が実施され、その初日となる11日には東通消防署前で防火パレード出動式が開催されました。

春の火災予防運動は空気が乾燥しやすく、火災が発生しやすいこの時期に、『消しましょう その火その時 その場所で』の全国統一防火標語のもと、火災への予防意識や火の元の注意を呼びかけ、防火意識を高めるために行われているものです。

防火パレード出動式では東通消防署員が整列する中、こども園ひがしどおり幼年消防



クラブの園児たちが元気いっぱいの纏振りを披露し「火遊びしない」「見つけたら通報」「なにかあったときは、お父さん、お母さんたちの言うことをきちんと聞く」という誓いを立てました。

今年は村内で住宅火災が1件発生しています。自分は大丈夫だと思わず、火の扱いには十分注意し、火災の予防につとめましょう。

